

2023年12月期第4四半期

連結決算概要

2024年2月
日本セラミック株式会社(6929)

この資料に記載されている、当社又は当社グループに関連する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価などといった、将来に関する記述をはじめとする歴史的事実以外の全ての事実は、当社が現在入手している情報に基づく、予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として記載されているにすぎません。また、見通し・予想数値を算定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・予想を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述ないし事実又は前提（仮定）については、それらの性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。したがって、これがその原因となりうるリスクや要因は多数あります。

すなわち、当社グループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス・ビジネス市場は変動性が激しく、加えて、当社グループは国内のみならず海外においてもビジネスを行っているため、技術、需要、価格、競争状況、各地の経済環境の変化、為替レートの変動、その他の多くの要因が業績に影響を与えることがあります（尚、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません）。

資料内の数値は百万円未満を切り捨て表示し、百分率は元データから算出しております。

通期業績で過去最高の売上高・営業利益

**車載向け製品が自動車生産台数の回復を受け、
堅調に推移**

**赤外線センサ製品(防犯向け)が顧客の在庫調整の
影響により減収**

**今後の生産能力増強に向けて、フィリピン及び国内にて
土地を新規取得**

資本効率改善に向け、在庫の削減に注力

直近業績や今後の見通しを踏まえ、中期経営計画を見直し

2023年12月期 通期連結業績



単位：百万円		FY2022		FY2023		増減	
		実績	利益率	実績	利益率	額	率
売上高		23,258	-	24,449	-	1,190	5.1 %
売上総利益		6,816	29.3%	6,839	28.0%	23	0.3 %
営業利益		4,178	18.0%	4,574	18.7%	395	9.5 %
経常利益		4,946	21.3%	5,313	21.7%	367	7.4 %
親会社株主に帰属 する 当期純利益		5,022	21.6%	3,693	15.1%	△1,329	△26.5 %
USD レート	平均	129.67円		139.80円		10.13 円の円安	
	当期末	132.70円		141.83円		9.13 円の円安	

連結四半期 売上高・利益推移

単位：百万円	21/4Q	22/1Q	22/2Q	22/3Q	22/4Q	23/1Q	23/2Q	23/3Q	23/4Q
売上高	5,531	5,129	5,847	6,114	6,168	5,801	6,087	6,571	5,988
営業利益	840	872	1,089	1,104	1,113	1,047	1,178	1,302	1,046
経常利益	973	1,050	1,488	1,438	970	1,172	1,580	1,502	1,058
親会社株主に 帰属する 当期純利益	721	925	2,228	1,822	47	981	979	1,046	685
USDレート (四半期末)	115.02	122.39	136.68	144.81	132.70	133.53	144.99	149.58	141.83

※ 為替レートは四半期末を示しています

連結営業利益 増減要因分析

営業利益
'22/1~12

394百万円の増益

営業利益
'23/1~12

4,179



632



売上高
の増加

558



為替による
売上高の増加

△1,169



売上原価
の増加

373



その他

4,574



(百万円)

■ 車載向け製品の受注増加等を受け、国内・欧州向けが増収

単位：百万円	FY2022	FY2023	増減率	地域別割合
日本	13,026	13,931	7.0%	57.0%
極東、 アジア	8,510	8,643	1.6%	35.4%
欧州	1,321	1,696	28.4%	6.9%
北南米	400	177	△55.6%	0.7%
合計	23,258	24,449	5.1%	100%

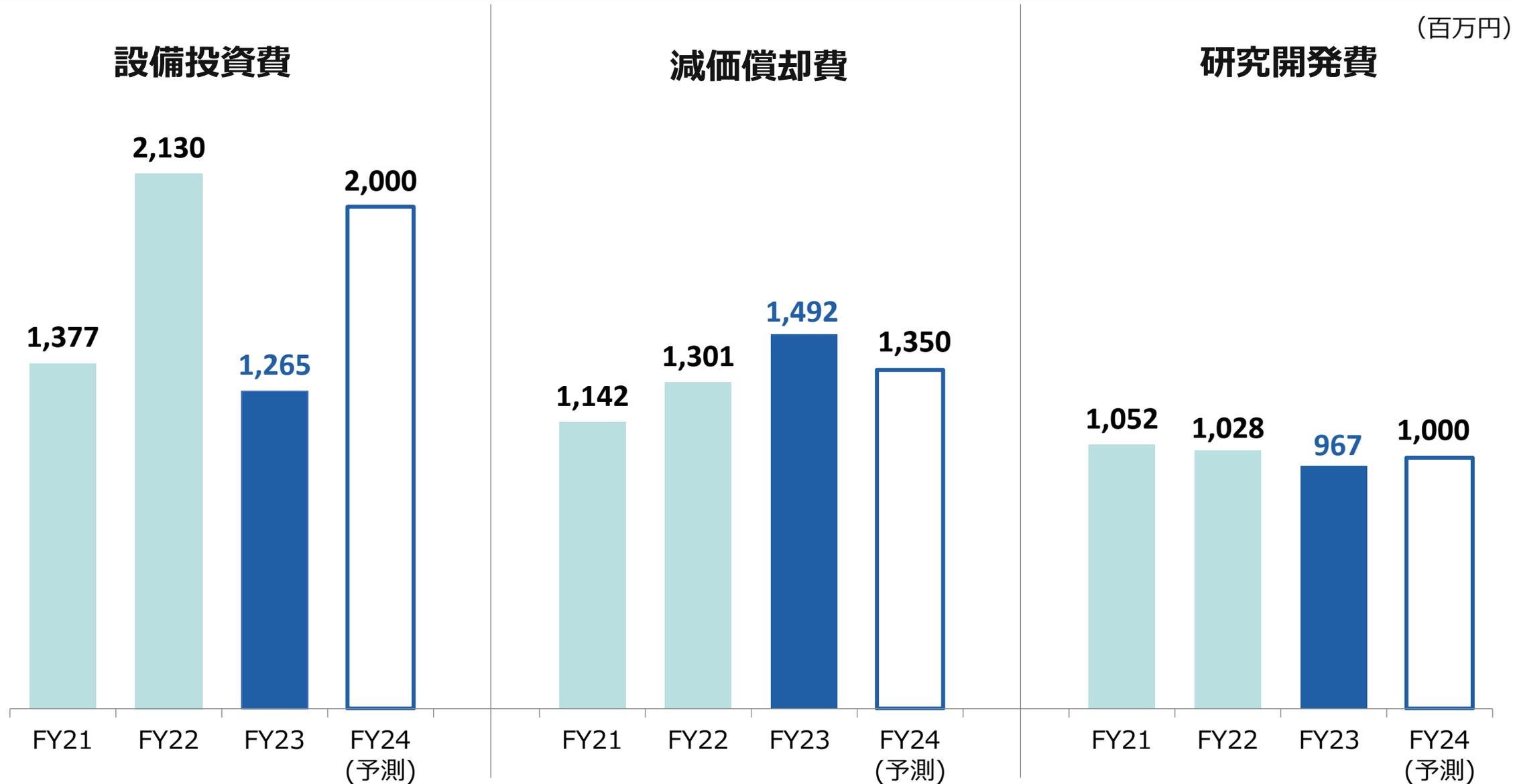
連結キャッシュフロー

単位：百万円	FY2022	FY2023	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,087	5,192	104
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,729	△154	4,574
フリー・キャッシュ・フロー	3,033	3,779	745
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,278	△3,082	3,195
現金及び現金同等物の期首残高	19,330	13,655	△5,674
現金及び現金同等物の期末残高	13,655	15,737	2,081

連結貸借対照表

単位：百万円	2022年12月末	2023年12月末	前年度末差
流動資産	47,032	45,926	△1,105
（内、棚卸資産	7,923	6,205	△1,717
有形固定資産	10,480	10,115	△364
無形固定資産	205	347	141
投資その他の資産	1,285	1,531	246
資産の部合計	59,003	57,920	△1,082
流動負債	7,177	4,313	△2,863
固定負債	956	975	18
負債の部合計	8,133	5,289	△2,844
株主資本	45,280	45,993	712
その他	5,589	6,638	1,049
純資産の部合計	50,869	52,631	1,762
負債及び純資産合計	59,003	57,920	△1,082

累計設備投資費、減価償却費及び研究開発費



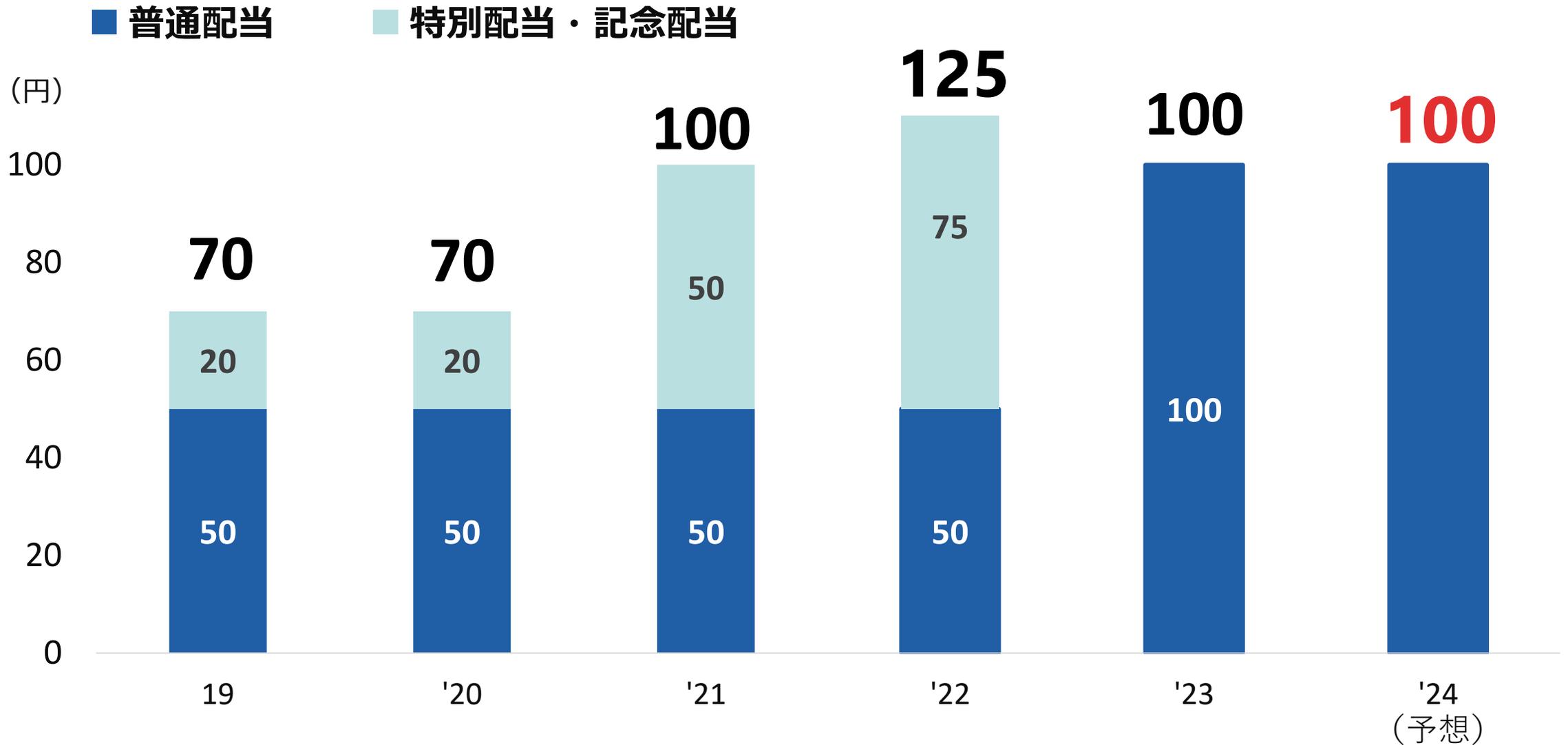
2024年通期見通し 連結決算要約



単位：百万円	FY2023実績	FY2024見通	前期比	
			増減額	増減率
売上高	24,449	26,000	1,551	6.3%
営業利益	4,574	5,000	426	9.3%
経常利益	5,313	5,500	187	3.5%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	3,693	3,900	207	5.6%
USD	139.80円 (実質平均)	145.00円		

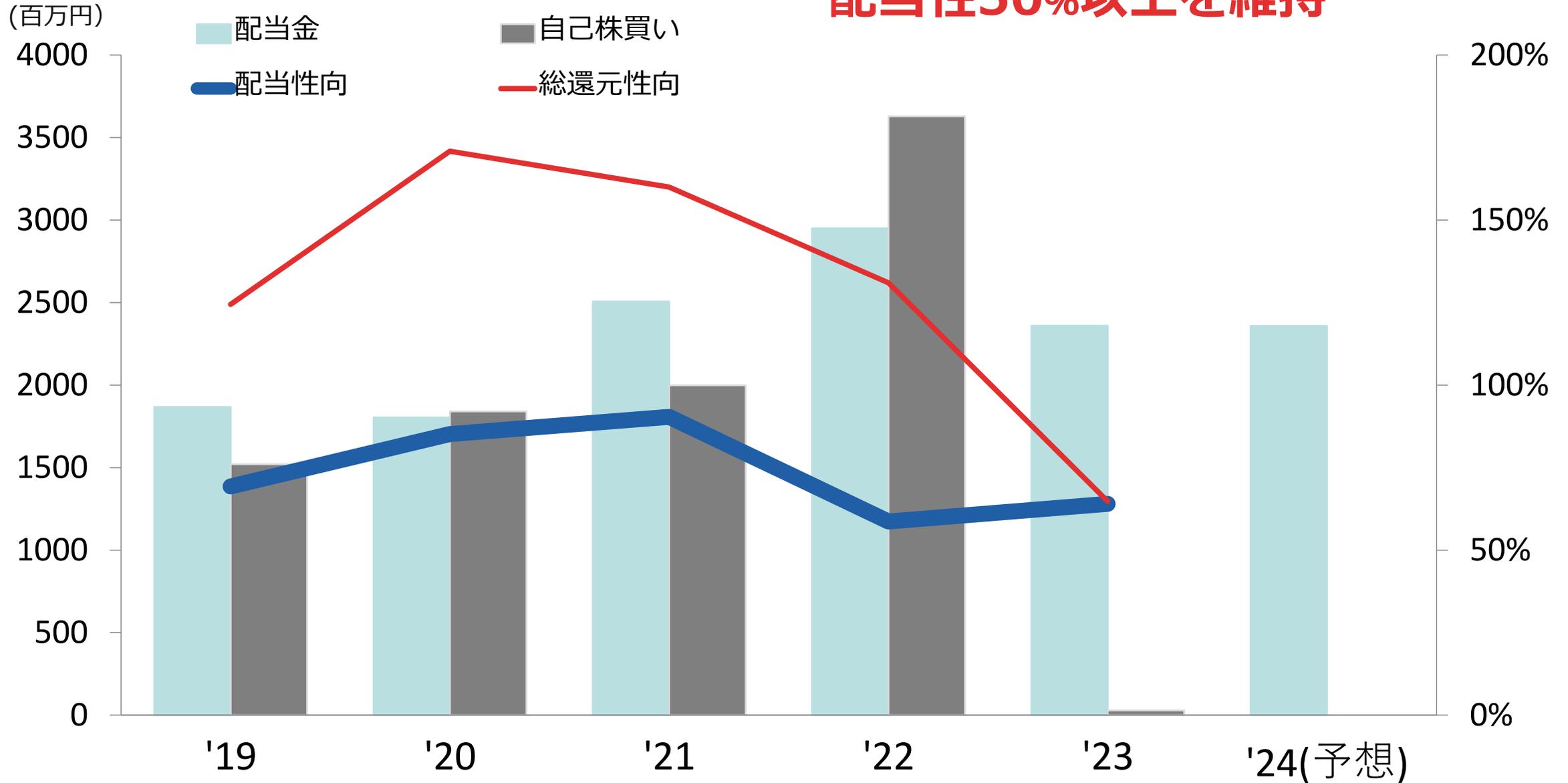
中期経営計画見直し

単位：百万円	2021年 (実績)	2022年 (実績)	2023年 (実績)	2024年 (計画)	2025年 (計画)
売上高	21,358	23,258	24,449	26,000	27,500
営業利益	3,380	4,179	4,574	5,000	5,500
営業利益率 (%)	15.8	18.0	18.7	19.2	20.0
当期純利益	2,817	5,022	3,693	3,900	4,200



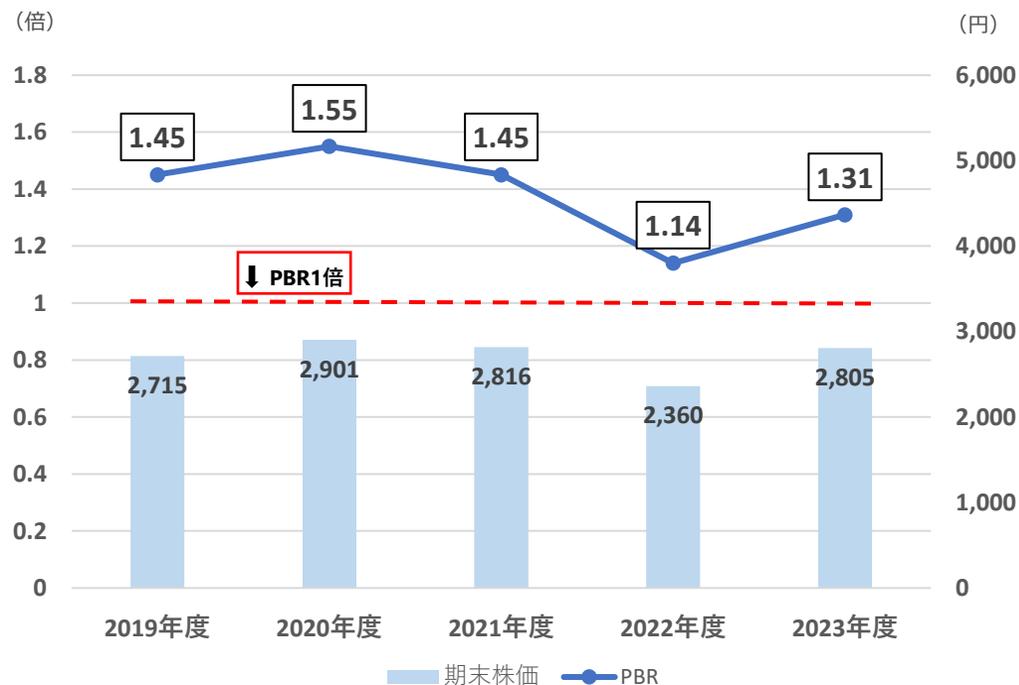
※当社は従来から年1回期末配当のみ

配当性50%以上を維持

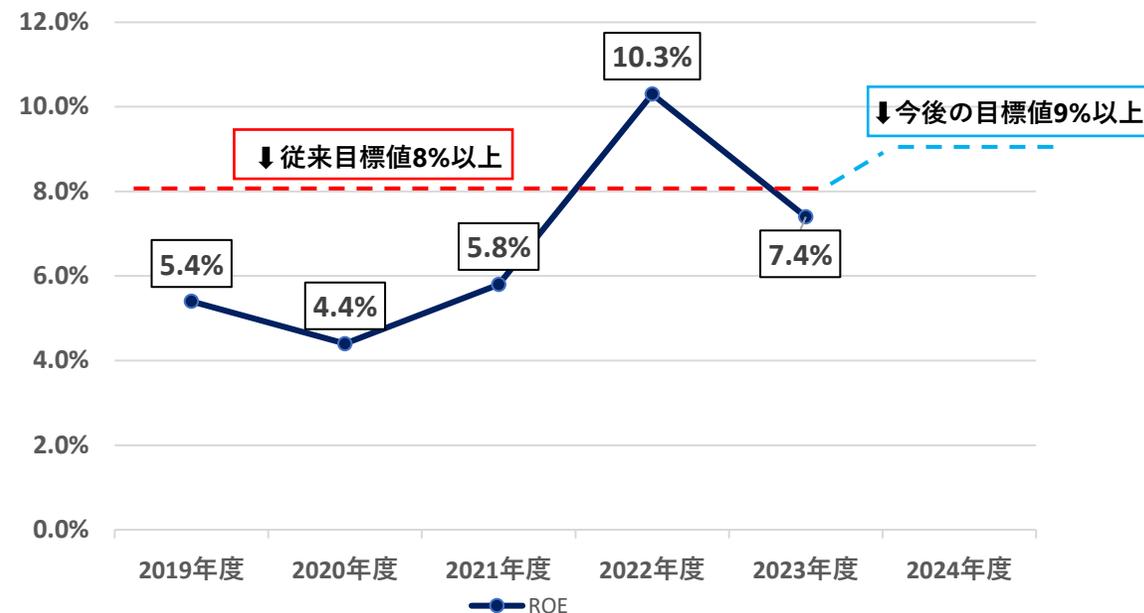


- ▶ PBRは1倍を超えて推移
- ▶ ROEは、目標であった8%以上に対して下回って推移しており、重要な経営課題として認識
- ▶ 今後はROE目標を9%以上とし、改善に取り組む
- ▶ ROE改善に向けて資産効率に課題
- ▶ 今後は資産効率改善に加え、収益力の向上や株主還元、IRの充実等に注力

PBR (株価純資産倍率) 推移



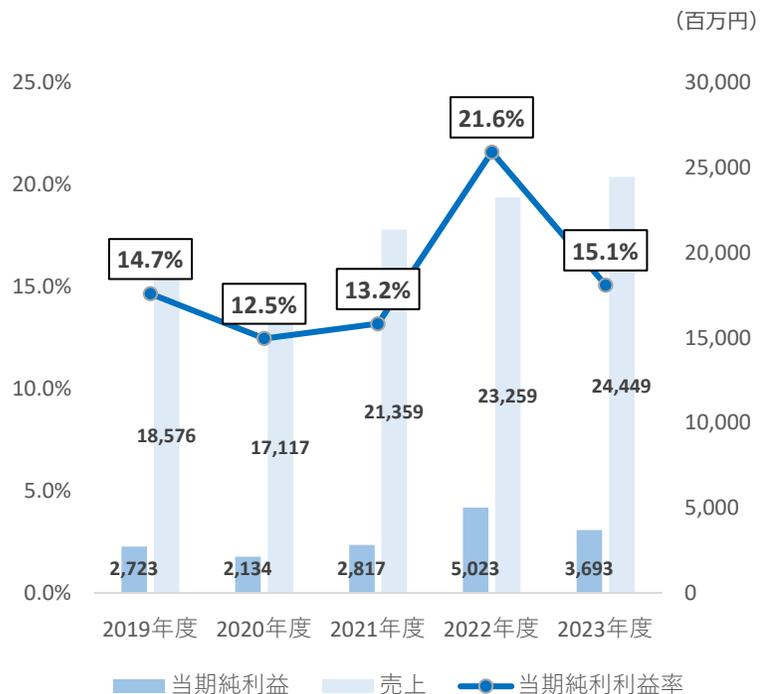
ROE (自己資本利益率) 推移



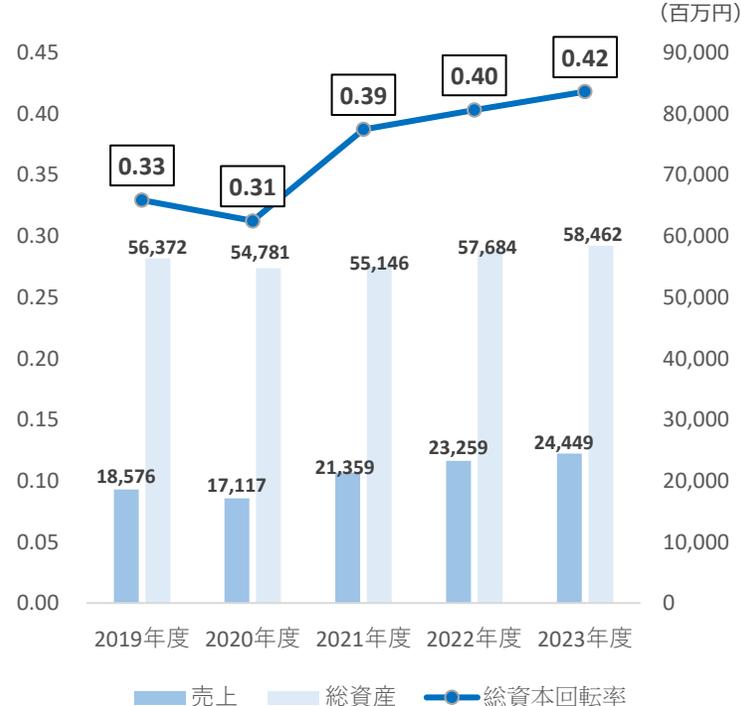
- PBRは1倍を超えて推移。
- ROEは当社が株主資本コストを上回る水準として目標値としていた「8%以上」に対して下回って推移しており、重要な経営課題であると認識しております。
- 今後については、ROEの目標値を「9%以上」に引き上げ、達成に向けて取り組んで参ります。

現状分析 (ROEの分解)

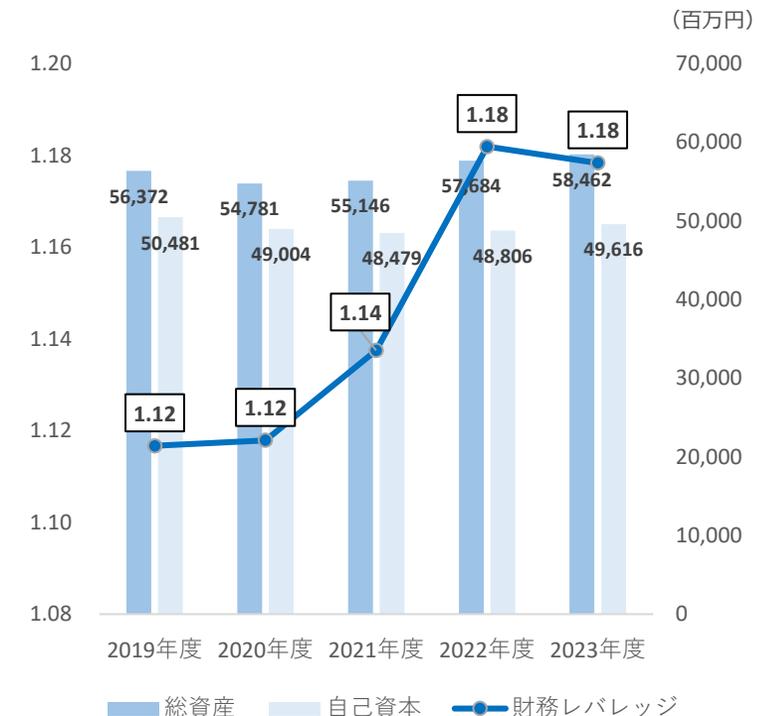
当期純利益率



総資産回転率



財務レバレッジ



・低ROEの要因として、総資産回転率や財務レバレッジが低水準であることが挙げられ、バランスシートの改善を進めると共に、収益力についても更なる向上に向けて取り組む必要がある。

収益力の向上

- ・ **中期経営計画の実行**
2024年2月9日公表の「中期経営計画見直しに関するお知らせ」にて策定した計画の実行。
- ・ **事業ポートフォリオの見直し**
資本効率の高い事業への経営資源の配分。
- ・ **生産性の向上**
製造ラインの自動化・省人化や、工程の内製化等を通じて生産性向上に注力。

資産効率の改善

- ・ **在庫の削減**
材料供給不足の影響等により膨らんでいる在庫を、海外工場を含めた全社的な在庫管理の徹底や部材発注方法の見直しにより、在庫回転期間2カ月を目標として削減に注力。
- ・ **効率性を意識した経営**
管理指標としてROICをはじめとする効率性指標を導入し、資本効率の改善に注力。
- ・ **成長に向けた資本活用**
需要が拡大している成長事業に積極的に投資を行う。

株主還元の強化

- ・ **配当方針の見直し**
従来の配当方針「配当性向30%以上」を資本コストを考慮し「配当性向50%以上」に見直し。
- ・ **自社株買いの実施**
持続的な成長や資本効率の向上に向けて、経営環境等を総合的に勘案し柔軟かつ機動的に実施。

IR活動の充実

- ・ **株主との建設的な対話**
株主・投資家との対話を通じて得られたフィードバック、課題を経営陣・取締役と共有し、今後の取組みに反映。
- ・ **情報開示の充実**
非財務情報を含めた開示の充実化。

(注意事項)

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

今後もご支援のほど、よろしくお願い致します。